

のと里山空港について

東京奥能登応援団の皆様には、日頃からの、のと里山空港の利用促進にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

のと里山空港が、奥能登地域の拠点として、平成15年7月7日に開港して、7月7日に17年目を迎えました。

開港にあたり、当初は航空会社から羽田便を1日1往復で就航することとしたが、全国初となる搭乗率保証制度を導入して、1日2往復の就航が実現いたしました。

以来、多くの皆様のおかげで目標搭乗率を達成しており、昨年7月7日から今月6日までの16年目は、速報値で利用者が過去最高の169,524人、搭乗率も現行の166人乗りの機材が導入されて以降過去最高の71.0%となりました。

特に近年は、首都圏の方々の利用が伸びています。世界農業遺産「能登の里山里海」や日本遺産「能登のキリコ祭り」、ユネスコ無形文化遺産「青柏祭」などの祭り文化といった、能登の自然や文化のほか、ふぐ・ブリ・牡蠣といった豊かな食料など、能登の持つ魅力が、皆様による情報発信のおかげで、多くの方々に浸透してきたのではないかと感じております。この好調を維持している間に将来に向けた取り組みを進めていかなければならないと考えており、今月は

石川県空港企画課長 北村 裕一

小学生の親子を対象に初めて滑走路を走るマラソン大会を予定しているほか、9月には首都圏の女性と能登の男性の出会いの場を提供する「婚活ツアーin能登」を開催し、マイ空港意識の醸成や新たな利用者層の拡大を図っていくこととしております。これから先も、のと里山空港が能登の重要な玄関口としてあり続けられるよう、さらには、能登地域の活性化の拠点として発展するよう、努めてまいりますので、これまでに増しのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



●開催日:2019年9/28(土)~29(日)
[1泊2日]
●参加条件:独身女性20~39歳の方
●旅行代金:2万円
●募集人数:40名(先着順)
●お問合せ先:(株)阪急交通社
☎03-6745-1300
電話受付時間/月~金9:30~17:30、土・日・祝9:30~13:30 ※お問い合わせの際は
コース番号[47929]をお申し付けください。



こらむ アイデンティティ 43

帰省再考の情

気迫と凄まじい怒りの形相の 御陣乗太鼓!

輪島市の名舟に伝承されてきた奥能登が誇れる芸能文化御陣乗太鼓がある。僅か70戸だけの集落で保存し、国内はもとより諸外国において公演を重ねている。県指定の文化財として観光客に披露し能登の香りを思い出に届ける一役を担っている。

演舞は、奇怪な出で立ちに勇猛な立ち居振る舞いと抱のさばき合いで威嚇する音色の響きは人間の人間としての境を超えた断末魔にある世界である。暗夜に限りない恐怖にさらられて対峙する乱舞は、されど誠に強い。魔力に導かれるかのように強烈な音色がドン底から打ち出される。

私はこの5月このなんともかとも不思議な御陣乗太鼓が生まれた名舟の里を尋ねた。背景に山前面に海が広がりありわさいに家々が集散していた。沖ははるかに在る船倉島の奥津姫神社の御神徳によるところにあると言い伝わっている。

由来は、越後の上杉謙信が天正5年(1577)七尾城を攻略し余勢で珠洲三崎に上陸して武器を持たない名舟村に迫った時、古老の指図によつて樹皮で仮面を作り海藻を頭髮とし太鼓を打ち鳴らして逆襲すると、奇怪極まる怪物の夜襲に上杉勢は驚き戦き退散したと語られる。だからこそここに能登人のためまぬ運しい心根を感じるのだ。

この能登の意気を込めた面や衣装に応じた曲芸で見えを切る勇壮な姿初めゆくり次にやや早くクライマックスはもっと早く強く入れ替わり立ち替わり乱れ打つ序破急の音律が心を震わすのである。

(押上武文(府中市)宝立町出身)

東京珠洲会のあれこれ

表 久雄

半世紀を超えた東京珠洲会

東京珠洲会の創立にかかわった会員のほとんどは、故人になられた。これらの先輩各位に敬意を表しながら、過ぎ去った東京珠洲会のあゆみの一端を思い出してみた。

北國新聞社東京支社(たしか、銀座七丁目にあったと思う)の二階の会議室へ来るようにと言われて行った。そのころ、富田喜作弁護士(松波出身・故人)の世話になっていたから、声をかけたのは、多分、富田さんだったのだろう。

その日、初代の会長に背戸栄吉さん(内浦・秋吉出身、故人・当時、新宿にあった大同信用金庫の役員)を選任して東京珠洲会が誕生したはずだ。この会の有力なメンバーの田中重雄さん(画家)とは、銀座の、北国新聞社の二階の会議室で、初めて東京で出会った。このときから、東京珠洲会の、よろず雑用係を引き受けることになった。

手元にある古いメモ帳によると、昭和四一年一月二二日(土)に、目黒の「天芳食堂」で、田中さんと若浦会(松波中学校出身の若者の集まり)を開いている。田中さんは、その数年前から、この「天芳食堂」に、出入りしていたし、その近くにあった「グリム」という喫茶店(ここは、近くにドレメの学校やミッションや教会などがあり、若い女性が大勢集まる人気のある店だった)で、何度か個展を開いていた。

この目黒の「天芳食堂」や喫茶店「グリム」は、東京珠洲会の有力なメンバーで、松波出身の土幸芳雄さん(故人)の経営だった。そのころは、土幸さんと東京珠洲会で初めて知り合って、数年、経過していたと思うのである。そこで、東京珠洲会は、この若浦会を開いた昭和四一年より三、四年前の、昭和三七、八年ころに発足したのではないかと考えている。

あゆみ

初代の背戸会長がなくなり、次いで、富田喜作氏を会長に選任したが、富田会長も亡くなった。そこで、昭和四七年には、ユニオン製靴の社長だった水口宝一氏(故人・宝立出身)を会長に選任した。

先輩に連れられて、ユニオン製靴の会社(墨田区の業平だったと思う)へ訪れ、水口さんに会長就任を頼んだ記憶がある。その当時、ユニオン製靴はイタリヤのミラノ市で開催されていた靴の展示会で「オスカー賞」という最高の賞を連続して受賞するなど、輝いていた。水口さんを推薦したのは、土幸さんだったと、田中さんがいう。

なお、現在の笠原会長は、当時、この会社に勤務していて、水口会長のアシスタントをしていた。水口会長の後、会長は谷克己さん(大谷)に引き継がれ、現在の笠原会長は五代目である。

故郷思いの、地味な親睦会だった

古い時代の東京珠洲会を思うとき、後輩を大事にしてくれた何人かの先輩の顔が浮かぶ。この会を作った

メンバーは、どなたも、珠洲から上京して苦労を重ね、独り立ちされた地味な先輩たちだった。だから、利害を超えた人間関係の結びつきが濃密だった。しかし、会が充実するにつれて、親睦会では飽き足りず、身の程知らない妄想を描いた会員もいなかったわけではないが、多くの会員は、同胞、後輩を大切にしてくれる故郷思いの、地味な人たちで、無理をすることなく、和気あいあいの親睦会で満足してきた。それが、今日まで長続した理由かもしれない。

また、特別に、東京珠洲会と名乗ってしたわけではないが、会の先輩たちの指示で、珠洲、内浦から修学旅行で上京した中学生の宿泊先を訪ねて、その当時は貴重品だったボールペンをたくさん仕入れてゆき、配ったりしたことが何回か、あった。

また、都内に親類縁者がなかったため、夜の自由時間どこにも行けずに旅館に残っている生徒たちを、先生の了解のもとで、東京見物に連れて行ったこともあった。ある夜のこと、幾人かの女子生徒を有楽町の喫茶店に連れて行ったところ、平尾昌晃らが流行らせた「ロカビリーブーム」の全盛期だったのだろうか、夢中になり、広い店内で何人かを見失ってしまったことがあった。今みたいに、携帯電話のない時代だ。門限に遅れて平謝りをした。

また、なけなしの金をはたいて、銀座の洋食屋に連れてゆき、ステーキを食わせたら、「肉は嫌いだ」と言われて、困惑したりしたものだ。

他愛ない、昔ばなしである。

(弁護士 我孫子市 能登町出身)



飯田高等学校 本部同窓会

8月16日(金)14:00～

珠洲商工会議所会館 大ホール

●14:00～ 総会

●15:00～ 講演会

日本ウエイトリフティング協会

強化副本部長 菊田三代治氏(飯高24回生)

●16:20～ 懇親会 帰省のみなさんご参加ください。

【参加ご希望の方】

光眞支部長まで **090-8876-4901**



東京珠洲会 定時総会

11月8日(金)

12:00～15:30

台東区浅草浅草ビューホテル

●懇親会

●ふるさと物産コーナー

●アトラクション

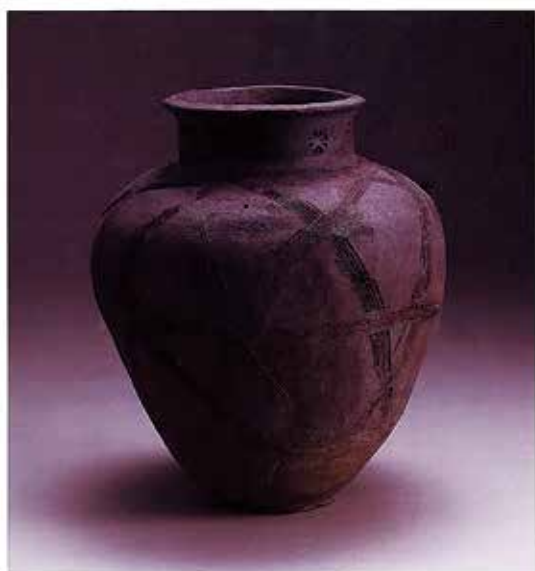
(ふるさと歌謡など)

【お問合せ先】

笠原会長まで **047-152-6231**



珠洲焼2019 9.18～29 東京渋谷ヒカリエ



中世・鎌倉・室町の文化が育み、歴史と潤った美しいやきもの

2019.9.18-29
渋谷ヒカリエ [東京・渋谷]
2019.10.5-11.10
珠洲焼資料館 [石川・珠洲]
Suzu Ware 2019
2019年秋、珠洲焼の魅力をもっと発見！ 展覧会と多彩なイベントを、東京・渋谷と石川・珠洲で開催

●9月18日(水)

オープニングイベント

11:00～12:00珠洲市長挨拶など

●9月28日(土)、29日(日)

トークイベント

▶13:00～14:00

出演 森由美さん、

珠洲市学芸員 大安尚寿さん

※28日14:00～15:00

大安さんによる日本陶磁協会

会員向け珠洲焼解説

▶15:00～16:00

出演 森由美さん、

篠原敬さん

※29日は珠洲市長も

▶物産イベント

11:00～17:00

キャンペーンイベント



奥能登応援団＝能登物産展



目黒石川県人会＝いしかわ物産展

首都圏のふるさと行事

8月3日(土)・4日(日)

石川県産農林水産物フェア・能登ワイン

いしかわ百万石物語・江戸本店

8月24日(土)・25日(日)

石川県産農林水産物フェア・ルビーロマン

いしかわ百万石物語・江戸本店

8月31日(土)

いしかわご当地グルメリレー

いしかわ百万石物語・江戸本店

9月11日(水)～16日(月)

加賀・能登・金沢物産と観光展

伊勢丹府中店

9月12日(木)～16日(月)

第32回富山・石川・福井の物産店

東武百貨店 船橋

10月18日(金)

いしかわ県人祭in東京

ホテル椿山荘東京

頑張る奥能登人

いしかわ観光特使
池上 智さん
(町田市在住・実家・珠洲市大谷町)



【プロフィール】

- 1985年12月 東京都千代田区生まれ
- 2011年3月 東京工科大学大学院修了
- 2011年4月 デンカ生研(株)入社
- 体外診断用医薬品の開発業務に従事
- 2018年7月 いしかわ観光大使に委嘱

◆メッセージ……

石川県の食・温泉・祭といった文化要素と町並みといった景観要素は、渾然一体となり、地域独特の表情として魅力を示しています。

これらの観光コンテンツに転化する資源は魅力が伝わる状態で整備されなければ機能を果たせません。地域の方々、特使の諸先輩方の活動には頭が下がる思いです。

特使への就任にあたっては、知名度に比例して地域のイメージが固定されている金沢や能登、加賀や白山地域に未だ眠る資源を発掘するところから始めたいと考えておりました。

先日、加賀藩のならわしに由来する雪氷の献上行事に同行させていただきました。県外に派生する行事として興味深い内容でした。



のとキシマツツジまつりで谷本知事と

【応援団から一言】

父親は石川県天然記念物である樹齢300年ののとキシマツツジを預かる池上権八さん。能登人2世として熱い郷土愛を秘めて活動する若き観光特使の活躍を期待いたします。

伝承でも建物でも
個々人が魅力的と感
じるものがありました
ら、是非一度ご紹介下
さい。

ふるさとの夏まつり



8月3日(土)
宝立キリコまつり



8月13日(火)
馬縹沙取節まつり

9月21・22日
小木袖キリコまつり



9月15日(日)
鵜島デカ山まつり



事務局から

能登で育った出身者の多くは、夏はお墓参りとキリコ祭りに家族と帰省するのが恒例かと拝察いたします。夏休みの子供たちとの海水浴や、幼なじみと担ぐキリコ祭りを楽しみに心を躍らせてふるさとへ向かったのではないのでしょうか。私は少しでも長く能登に滞在したいと勤務後の夜に都内を出発、10時間余り夜通しハンドルを握り明け方に能登に入るのが通例でした。さすが年齢を重ねてそんな強行軍の旅程を組むことはなく、今はのと里山空港や北陸新幹線を利用して帰省ができることを喜んでいます。一方、親をはじめ兄弟達が他界し肉親と会える楽しみが次第になくなり、帰心矢の如くと言った期待感はいそびなくなりました。それでも、帰省の度に「ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな(石川啄木)」をしみじみ感じるこのごろです。帰省は「ふるさと振興」のお手伝いに繋がります。家族で、友人を誘ってふるさとの魅力を再発見してみませんか。

[東京奥能登応援団] 代表／光眞 章 副代表／下平 康次